



JR 浦佐駅の東口を出て魚野川を越え、まっすぐ進むと右手に現れる「池田記念美術館」。通称「いけび」。

池田記念美術館はベースボール・マガジン社及び恒文社を創設し野球殿堂入りした池田恒雄氏の強い志のもとに誕生した美術館。

1998年10月設立。
八色の森公園の象徴であり、公園の扇の要的な存在なのだ。

美術館の設計は「株式会社丹青社」。数々の美術館の設計を手掛けた丹青社の当時の社長が新潟県立小千谷高校のOBであり、池田恒雄もまた、小千谷高校のOBで丹青社社長の先輩だったというご縁から。

では何故この場所に建設したのだろうか？
そんな疑問は館内に入ればすぐわかる。

180度パノラマのエントラスホールが広がり雄大な越後三山の八海山と駒ヶ岳がその迫力ある姿を見せ見事な庭園と池に囲まれている。

美術館と自然との共生は全国各地でみられるが、
四季折々の顔をもつ
越後南魚沼の山々を味方にすれば、
それだけで「極上アート」を満喫できる。

エントランスホールのすぐ横には
「いけびカフェ」がある。
「極上アート」を「極上カフェ」で望む。
なんと贅沢なひと時でしょう。

美術館の外を歩いてみましょう。
回廊を歩くと、カラフルな床を発見。
観ているだけで楽しくなります。

建設時に地元の子供たちの
年齢や名前が手形とともに刻まれ、
埋め込まれています。
大人になり、美術館を訪れると
必ずここに立ち寄り
子供の頃を懐かしんでいるそうです。

いけびのもう一つの楽しみ方は
庭園から美術館を望む。
これもまたアートです。

庭園から見えるエントランスホール。
本日はどんなイベントがあるのでしょうか？
2階に一か所、窓がある。
なぜそこに窓があるのかは
内緒にしておきましょう。

美術館で心静かな時間を過ごす。

これもまた、
南魚沼流
極上の過ごし方。